

サブプライムローン危機の原因、経緯と教訓

Sergey I. Dyakin, CFA

目 次

1. 信用危機の現状
2. サブプライム市場の発展
3. サブプライムローンの証券化
4. サブプライム危機の伝播
5. 今後の展開
6. 今次危機からの教訓と先行きの展望

1. 信用危機の現状

米国のサブプライム危機に端を発した津波が他国の市場に伝播して、クレジットロスが1兆ドルに達するまでにもなっている（図表1）。この被害者は、差し押さえにより住宅を失った人や、突如として姿を消した投資銀行やヘッジファンド、さらには国からの資本投入を仰いで何とか生き永らえている商業銀行であり、国家自体が大きな危機に瀕している状況となっている。

モーゲージ証券の発行は、サブプライムのみならずオルト（Alt）A等も含めて2000年には500億



ドルであったものが05年には5,000億ドル超になった（図表2）。しかし、07年の7月以降、サブ

Sergey I. Dyakin, CFA

Putnam InvestmentsのStructured Credit Specialist。モスクワ物理工科大学修士（応用数学、物理学）、シカゴ大学MBA。ストラクチャードクレジットの専門家。パトナム・インベストメンツにてフィクストインカム（Fixed Income）の計量的調査に従事し、投資適格クレジットや新興市場デットポートフォリオの計量化ツールを構築。現在、RMBSポートフォリオマネジメントを担当。サブプライムやAlt-Aローンの延滞・デフォルト・損失モデルの構築に携わるほか、RMBSの価値評価法の開発を行う。